

「いわて県民計画(2019~2028)」 第1期アクションプランの 進捗状況について

I 健康・余暇

P 2~3

- 4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます
- (4) ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実
 - (5) 障がい者スポーツへの参加機会の充実
 - (6) 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大

III 教育

P 4~7

- 13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます
- (1) 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実
 - (2) 適切な部活動体制の推進
 - (3) 健康教育の充実
- 19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます
- (3) アスリートの競技力の向上
 - (4) 障がい者アスリートの競技力の向上
 - (5) スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上
 - (6) スポーツ活動を支える指導者等の養成

IV 居住環境・コミュニティ

P 8~9

- 26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります
- (2) スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進

4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、 生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます

課 題	今後の方向
<p>＜具体的推進方策④＞ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実</p>	
<p>高齢者世代と比較し、20～30代のスポーツ実施率が低い傾向にあることから、働く世代をはじめ各世代のスポーツを楽しむ機会の充実を図っていく必要があります。</p> <p>休日の運動部活動の地域移行のためには、地域スポーツ団体の規模や指導者数が十分でないことから、地域での受け入れ態勢を整備していく必要があります。</p>	<p>県民が心身ともに健康的に暮らせるよう、身近な地域でスポーツ活動ができる総合型地域スポーツクラブの活性化や、若年期から高齢期までのライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実に取り組みます。</p> <p>また、運動部活動の地域移行に向け、総合型地域スポーツクラブ等への指導や、指導者の確保、育成等の取組への支援に取り組みます。</p>
<p>＜具体的推進方策⑤＞障がい者スポーツへの参加機会の充実</p>	
<p>障がいの有無や年代等に関わらず、身近な地域で共にスポーツを楽しむ機会をより充実させる必要があります。</p>	<p>障がい者スポーツの一層の推進を図るため、引き続き障がい者スポーツ教室や大会開催などの取組を進めるとともに、「インクルーシブ（共生社会型）スポーツ」を楽しむ場の創出等により、障がいの有無や年齢、身体能力に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む環境の整備に取り組みます。</p>
<p>＜具体的推進方策⑥＞岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大</p>	
<p>障がいの有無や年齢、身体能力に関わらず、県民一人ひとりがスポーツを楽しむ機会を広げていくことが必要です。</p>	<p>県民一人ひとりがスポーツを楽しむ機会を拡充するため、超人スポーツやインクルーシブスポーツなどの、多様なスポーツへの参画機会の充実に取り組みます。</p>
<p>総 括</p>	
<p>以上のことから、スポーツを楽しむ機会の充実を図るため、身近な地域でスポーツ活動ができる総合型地域スポーツクラブの活性化や障がいの有無や年齢、身体能力に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む環境の整備に取り組みます。</p>	

反映結果

<新規事業の創設>

- 中学校の休日の運動部活動の地域移行に向けて、「地域スポーツ活動体制整備事業費（R5予算1,681千円）を創設し、コーディネーターの配置や指導者確保に係る実証事業の実施等により地域における受入体制の整備に取り組みます。〔第2期 No.4-④〕
- ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催のレガシーとして、スポーツを通じた国際交流を展開するため、「ラグビー国際交流推進事業実行委員会（仮称）負担金（R5予算6,211千円）」を創設し、ワールドアマチュアラグビーフェスティバルへ岩手県選抜チームの派遣に取り組みます。〔第2期 No.4-④〕

<既存事業の拡充>

- 運動部活動の地域連携を推進するため、中学生スポーツ・文化活動に係る研究会においてまとめられた提言を踏まえ、「運動部活動の地域連携推進事業費（R5予算5,201千円）」を拡充し、実証事業を行うとともに、研究成果の普及・発信を行い、休日の運動部活動の地域クラブへの移行を促進します。〔第2期 No.4-④〕

<その他取組の改善強化等>

- ライフステージに応じてスポーツを楽しめるよう、各種スポーツ教室の開催や企業等へ健康づくりの指導者派遣を行うなど、年代に応じた運動機会の確保に取り組むほか、新たに盛岡市と共同で整備したいわて盛岡ボールパーク等を活用しながら、プロスポーツ公式戦の誘致を行うなど、スポーツに親しむ機会の提供に取り組みます。
- 総合型地域スポーツクラブ等の運営体制の強化を図るため、研修会の開催等による指導者の養成や、資格取得支援等を通じた人材育成に取り組みます。
- 障がい者スポーツの振興を図るため、スポーツ教室や大会の開催を通じた参加機会の提供や、講習会の開催による指導者養成等に取り組みます。
- 障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが身近な地域でスポーツを楽しめるよう、インクルーシブスポーツのモデル事業の開催地域を拡充し、地域の推進体制構築、指導者の養成、体験教室、交流大会の開催に取り組みます。

13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます

課 題	今後の方向
<p>＜具体的推進方策①＞豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実</p>	
<p>健康の保持増進と体力の向上を図るため、運動習慣等に係る諸調査を活用し、児童生徒の実態を把握しながら、各学校における個別指導を含めた体力向上に向けた取組を改善する必要があります。</p> <p>また、児童生徒の「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」の形成に向けて、各習慣を相互に関連付けた一体的な取組の推進を図る必要があります。</p>	<p>「希望郷いわて 元気・体力アップ60運動」の取組を発展、継承させ、「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」の改善に向けて、学校内における各分野の担当者が連携し、一体的に関連付けながら取り組むことで、児童生徒一人ひとりのよりよい生活の確立に取り組みます。</p> <p>また、児童生徒がスポーツの意義や価値を学び、スポーツへの興味・関心を一層深められるよう、体育授業の改善などに取り組みます。</p>
<p>＜具体的推進方策②＞適切な部活動体制の推進</p>	
<p>適切な部活動体制の推進のため、全ての中学校の部活動における指導方針等について、学校、保護者、外部指導者等の共通理解が図られる機会を設けるよう、学校に対する働きかけを行う必要があります。</p> <p>また、各学校の部活動への加入が、「任意加入」となるよう、生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動の徹底について周知し、国において進めている部活動の地域移行については、各地域の実情に合わせて段階的に実施する必要があります。</p>	<p>「部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、指導者研修会の実施や、学校、保護者、外部指導者等を交えた連絡会等の開催により共通理解を推進します。</p> <p>また、「中学生スポーツ・文化活動に係る研究会」でまとめられた提言の周知を図ることに加え、部活動の地域移行については、県内及び全国で取り組んでいるモデル事業を市町村へ広げていくことにより、望ましい部活動の実現に取り組みます。</p>
<p>＜具体的推進方策③＞健康教育の充実</p>	
<p>本県では、運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化傾向により、全国と比較し小中学生で肥満傾向児の出現率が高いことから、生活習慣病など健康リスクを未然に防止するため、低年齢から自ら考え判断できる力を養っていく必要があります。</p> <p>また、スマートフォンなどの情報端末の普及によるSNS上での誹謗中傷などのいじめやネット犯罪等に巻き込まれる危険が深刻化していることを踏まえ、情報モラル教育の推進や保護者への啓発活動等を更に推進する必要があります。</p> <p>さらに、未だ薬物乱用防止教室を開催していない学校があることから、開催を推進する必要があります。</p>	<p>「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」の取組を発展、継承させ、「よりよい運動習慣形成」「望ましい食習慣の形成」「規則正しい生活習慣形成」の改善に向けて、学校内における各分野の担当者が連携し、一体的に関連付けながら取り組むことで、児童生徒一人ひとりのよりよい生活の確立を促進します。</p> <p>また、児童生徒が、情報化社会において適切に行動する考え方や態度を身に付ける指導を行うため、情報モラルに係る児童生徒向けの指導資料を作成し、県内公立学校の児童生徒に配付することで、情報モラルの啓発を図るほか、インターネット利用等に関する普及啓発活動を保護者や地域、関係団体と連携して推進します。</p> <p>さらに、薬物乱用防止教室の開催意義、対象学年に応じた学習資料や学習内容の情報提供を行い、学校での開催に向けた取組を推進します。</p>

総 括

以上のことから、児童生徒の健やかな体の育成に向け、「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」を相互に関連付けた一体的な取組の推進や、学校体育の充実、適切な部活動体制の推進及び健康教育の充実に取り組みます。

反映結果

<既存事業の拡充>

- 運動部活動の地域連携を推進するため、中学生スポーツ・文化活動に係る研究会においてまとめられた提言を踏まえ、「運動部活動の地域連携推進事業費【再掲】(R5予算5,201千円)」を拡充し、実証事業を行うとともに、研究成果の普及・発信を行い、休日の運動部活動の地域クラブへの移行を促進します。[第2期 No.13-②]

<制度・組織体制の見直し>

- 国が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」(令和4年12月)を踏まえ、「岩手県における部活動の在り方に関する方針」(令和元年8月)の改定に取り組みます。

<その他取組の改善強化等>

- 児童生徒一人ひとりが自らの体力や健康に関心を持ち、生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができるよう、「60プラスプロジェクト」として家庭や地域などと連携し、「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」の形成による健康の保持・増進に向けて、各習慣を相互に関連付けた一体的取組を推進します。
- 生徒の自主的・自発的な活動を支える環境や体制を構築するために、部活動指導者研修会における「部活動の在り方に関する方針」の周知徹底、部活動連絡会等への支援を通して学校、保護者、外部指導者等の共通理解が図られるよう取り組みます。
- 児童生徒のインターネットやSNSの利用が日常化している中、情報モラルに基づき正しく活用できる資質・能力を児童生徒が身に付けるため、児童生徒向けの指導資料を定期配信するとともに、情報モラルに係る児童生徒の主体的な取組事例をリーフレットにまとめ、県内の学校に配布します。また、保護者や地域、関係団体と連携し、インターネット利用のルール等に関する普及啓発活動に取り組みます。
- 児童生徒が薬物乱用の有害性・危険性について正しい知識を習得するため、薬物乱用防止教室講習会の開催、対象学年に応じた学習資料や学習内容等の情報提供など、警察や学校薬剤師等と連携した効果的な薬物乱用防止教室の開催を推進します。

Ⅲ 教育

19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます

課 題	今後の方向
<具体的推進方策③>アスリートの競技力の向上	
国際大会等で活躍するトップアスリートを育成するため、日本スポーツ協会等と連携し、中長期的な視点に立った育成や、日本代表や全国で上位入賞を目指す選手に対する支援などに継続的に取り組む必要があります。	スーパーキッズの発掘・育成など中長期的な視点に立ったアスリートの育成に取り組みます。
<具体的推進方策④>障がい者アスリートの競技力の向上	
「北京2022パラリンピック」、「2021アジアユースパラ競技大会」に本県ゆかりの選手が多数出場するなど、本県の障がい者スポーツのレベルは高まっており、更なる選手の発掘・育成と指導者、介助者の育成等を含め、競技活動へのサポートが必要です。	障がい者スポーツ選手の発掘・育成のため、関係団体と連携し、競技体験会や強化練習会を実施するとともに、大会や強化合宿への参加等に係る活動支援に取り組みます。
<具体的推進方策⑤>スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上	
国際大会等で活躍するトップアスリートを育成するため、アスリートの様々な要求に対応できるサポート人材をさらに養成していく必要があります。	体力測定等で得られたデータや、最新のデジタル技術を活用し、個々に適した科学的なトレーニングメニュー等を提供できる人材の養成に取り組みます。
<具体的推進方策⑥>スポーツ活動を支える指導者等の養成	
スポーツを担う人材を育てるため、スポーツ活動を支える指導者等の養成に取り組むことが必要です。	中央競技団体が行う研修への参加支援や、スポーツ・インテグリティ*の確保に向けた研修の実施に取り組みます。 障がい者のスポーツ活動を支える指導者を養成するため、関係団体と連携し、指導者の資格取得に向けた講習会の実施などに取り組みます。 地域のスポーツ活動を担うスポーツ推進委員等の人材育成・資質向上を図るため、市町村や関係団体と連携し、研修・研究大会の実施などに取り組みます。
総 括	
以上のことから、スポーツを担う人材を育てるため、中長期的な視点に立ったアスリートの育成や、個々に適した科学的なトレーニングメニュー等を提供できる人材の養成に取り組みます。	

反映結果

<新規事業の創設>

- 中学校の休日の運動部活動の地域移行に向けて、「地域スポーツ活動体制整備事業費【再掲】（R5 予算14,681千円）を創設し、コーディネーターの配置や指導者確保に係る実証事業の実施等により地域における受入体制の整備に取り組みます。[第2期 No. 19-⑥]

<既存事業の拡充>

- 特になし

<その他取組の改善強化等>

- 遠隔地から参加しているスーパーキッズの負担を軽減し、個々に合ったトレーニングメニューを提供するため、タブレットを活用したオンラインによるプログラム配信を行うなど、中長期的な視点に立ったアスリートの育成に取り組みます。
- 世界で活躍するトップアスリートの輩出に向けて、日本代表としてオリンピック等の国際大会で活躍が期待されるアスリートに対する活動経費を支援するとともに、アスリートの県内就職に向けたマッチング支援に取り組みます。
- 障がい者アスリートの発掘・育成を図るため、体力測定や競技研修を開催するとともに、強化指定選手に対する競技活動に要する経費の支援に取り組みます。
- 次世代で活躍するトップアスリートを輩出するため、映像分析ソフトウェアシステムを導入し、指導者のコーチングスキルを高め、選手の競技力向上に取り組みます。
- 指導者やスポーツ推進委員等の資質向上を図るため、スポーツ・インテグリティ等の研修会の開催に取り組みます。
- 障がい者スポーツ活動を支える指導者を養成するため、資格取得に向けた講習会を開催するとともに、講習会参加者の増加に向け、SNSやホームページ等を活用し、資格取得のメリットや講習会の参加募集等の情報発信に取り組みます。

【用語解説】

※ スポーツ・インテグリティ

スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態。八百長・違法賭博、ガバナンス欠如、暴力、ドーピング等の様々な脅威から、スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性を守る取組。

26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります

課 題	今後の方向
<p>＜具体的推進方策②＞スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進</p>	
<p>スポーツを生かした地域活性化を図るため、大規模大会のレガシーを生かしたスポーツ大会・合宿等の誘致や、本県の豊かな自然を生かしたスポーツアクティビティを活用した交流人口の拡大に取り組む必要があります。</p> <p>また、県民のスポーツに対する関心を高めるため、トップ・プロスポーツチームが持つ発信力等を生かして、県民との一体感の醸成に取り組む必要があります。</p>	<p>いわてスポーツコミッション※を中心としたスポーツ大会の開催実績を生かしたスポーツ大会・合宿の誘致や、豊かな自然を活かしたスポーツアクティビティの普及により、人的・経済的な交流を推進します。</p> <p>また、県内のトップ・プロスポーツチームと連携したスポーツ教室等の開催や試合を通じた県のPRの実施により、県民のスポーツに対する関心を高め、一体感の醸成に取り組みます。</p>
<p>総 括</p>	
<p>以上のことから、スポーツを生かした地域活性化を図るため、大規模スポーツ大会の開催実績を生かした大会・合宿誘致や、トップ・プロスポーツチームと連携したスポーツ教室等の開催等に取り組みます。</p>	

反映結果

＜新規事業の創設＞

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした東京都と被災地とのつながりを生かした地域活性化を図るため、「被災地スポーツ交流推進事業費（R5予算3,998千円）」を創設し、児童・生徒の交流試合の開催や、震災学習の機会の提供に取り組めます。[第2期 No. 26-②]
- ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催のレガシーとして、スポーツを通じた国際交流を展開するため、「ラグビー国際交流推進事業実行委員会（仮称）負担金（R5予算6,211千円）」を創設し、ワールドアマチュアラグビーフェスティバルへ岩手県選抜チームの派遣に取り組めます。[第2期 No. 26-②]

＜既存事業の拡充＞

- 特になし

<その他取組の改善強化等>

- 人的・経済的な交流を推進するため、いわてスポーツコミッション※を中心に、いわて盛岡ボールパークなどのスポーツ施設を生かした大会・合宿の誘致や、本県の豊かな自然や地域の特徴を生かしたスポーツアクティビティの普及に取り組めます。
- 県内トップ・プロスポーツチームと県民との一体感の醸成による地域活性化を図るため、各チームと連携し、スポーツ教室の実施などに取り組めます。

<補 足>

- 「被災地スポーツ交流推進事業」の創設は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした、東京都と被災地（宮城県、福島県、岩手県）との絆を生かしたスポーツ交流事業を行うことにより、本県の優れたスポーツ施設のPRや、復興に取り組む被災地の姿の発信など、スポーツを生かした地域活性化を図るものです。

【用語解説】

※ スポーツコミッション

スポーツ資源と観光資源を生かし、スポーツ大会やスポーツ関連イベント等の誘致、スポーツツーリズムの推進等を官民の関係機関・団体が一体となって取り組み、交流人口の拡大等による地域活性化を図る組織。